

現職教育資料

◇はじめに

- 1 道徳教育の基本的な考え方
- 2 教え育てる道徳教育について
- 3 道徳の時間の進め方

◇おわりに



学校における道徳教育の充実

～道徳教育の基本的な理解のために～



◇ はじめに

子どもたちの生活習慣の乱れやコミュニケーション能力の低下、責任感の欠如、モラルに欠ける行動など、子どもたちの道徳性に関わる問題が指摘される中、道徳教育の充実が求められています。

本号では、学校における道徳教育の基本的な理解が図られるよう、道徳教育の考え方や道徳の時間の進め方を確認するとともに、本県で推進している「教え育てる道徳教育」との関連等についても解説しました。特に教職経験の少ない先生方が疑問に感じると予想されることなどを会話形式で構成していますので、現職教育等でぜひ御活用ください。（※文中の（小p.〇〇・中p.〇〇）は小学校及び中学校学習指導要領解説道徳編の出典ページを示しています。また、書体を変更したり、下線を付したりしています。）



日頃、「道徳」について、どんな課題を感じていますか？

「教え育てる道徳教育」って何？
道徳って教えるの？

「道徳教育」と「道徳の時間」は、どう違うの？

「道徳の時間」は、どのように授業を進めたらいいの？

道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」は何が違うの？

道徳の授業をやっても児童生徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。



学校における道徳教育を再確認してみましょう。

1 道徳教育の基本的な考え方



「道徳教育」と「道徳の時間」は、どう違うの？

主な指導場面と目標が違います。
道徳教育は、「学校の教育活動全体」で、「道徳性」を養います。
道徳の時間は、「年間35時間の授業」で、「道徳的実践力」を育成します。



○ 学習指導要領から「道徳教育」と「道徳の時間」の関係は以下のように整理されます。

道徳教育

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

道徳性を養う

《参考》

「第1章 総則」の「第1 教育課程の一般方針」の2 中段

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

「第3章 道徳」の「第1 目標」前段

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳教育

道徳の時間

各教科

外国語活動

道徳性

総合的な学習の時間

特別活動

道徳教育は、道徳の時間、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う教育活動です。

道徳の時間は、他の教育活動の中核的な役割や性格を持ち、道徳的実践力を育成する教育活動です。

道徳の時間

道徳の時間においては、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する。

道徳的実践力を育成する

《参考》

「第3章 道徳」の「第1 目標」後段

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め（道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め）、道徳的実践力を育成するものとする。 ※ 〃は小学校、（ ）は中学校

《参考》道徳の時間の役割を「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、「要」という表現を用いて道徳の時間の道徳教育における中核的な役割や性格を明確にした。（小p.7・中p.7）

道徳の時間は、道徳教育の「要」



道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」は何が違うの？

「道徳的実践力」は、目に見えない内面的資質です。
「道徳的実践」は、具体的行動です。



○ 道徳性を構成する諸様相を「小学校低学年 2-（3） 友達と仲よくし助け合う」の内容項目を例にすると、以下のように整理されます。

○道徳的心情：「友達と仲よくして、助け合いたいな」

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情

○道徳的判断力：「友達と仲よくして、助け合うことはよいことなんだ」

それぞれの場面において善悪を判断する能力
人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力

○道徳的実践意欲と態度：「友達と仲よくして、助け合っていこう」

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
・道徳的実践意欲：道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
・道徳的態度：それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳的実践力

- ・人間としてよりよく生きていく力
- ・道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質
- ・主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するもの

○道徳的行為：友達と仲よくし助け合う

○道徳的習慣：いつも友達と仲よくし、助け合っている

長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方

道徳的実践

道徳性

道徳的実践力が育つことによって、より確かな道徳的実践ができる。

道徳的実践力

- 道徳的心情
- 道徳的判断力
- 道徳的実践意欲
- 道徳的態度

道徳的行為

道徳的習慣

道徳的実践

道徳的実践を繰り返すことによって、道徳的実践力も強められる。



学習指導要領解説道徳編において、「道徳性の育成においては、道徳的習慣をはじめ道徳的行為の指導も重要である。（小 p. 28・中 p. 29）」とあるように道徳の時間とともに各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、そして日常生活で行う道徳的実践の指導も大切にしましょう。

2 教え育てる道徳教育について

道徳性の育成においては、道徳的行為（道徳的実践）の指導も重要であることは、前頁でも確認しました。道徳教育は、道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通じて行われるものです。では、道徳の時間以外の道徳教育とは、どのような教育活動なのでしょう。『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、道徳的実践の指導として、道徳の時間以外の道徳教育の具体的な指導場面を示しました。



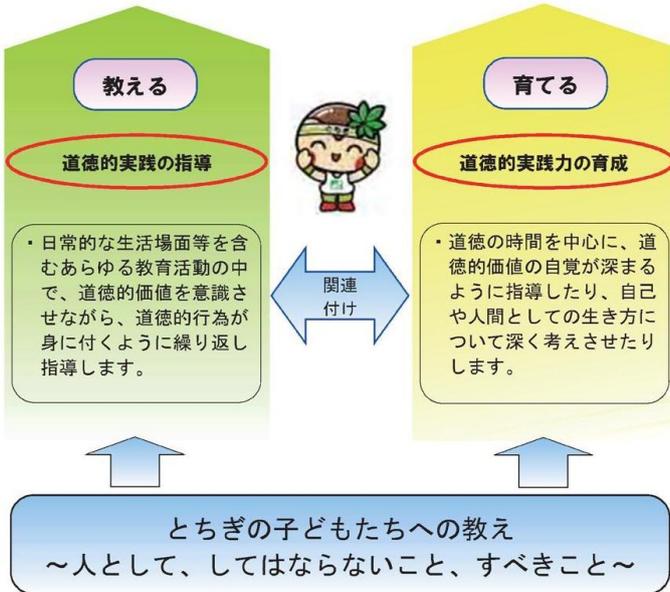
「教え育てる道徳教育」って何？ 道徳って教えるの？

「教え育てる道徳教育」とは

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むために、「教えること」（主として道徳的実践の指導）と「育てること」（主として道徳的実践力の育成）をともに大切にしながら、互いに関連付けて指導する教育活動のことです。

「教え育てる道徳教育」概念図

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育みます。



子どもたちの中には、道徳性が十分に身に付いていない子どももいますが、その原因の一つに「教わるべきことをしっかりと教わっていない」ことが考えられます。

そこで、県教育委員会では「道徳的実践の指導」の充実に向けて、日常生活場面等を含むあらゆる教育活動を通して、「人として、してはならないこと、すべきこと」をしっかりと教えられるように、「とちぎの子どもたちへの教え」を示しました。

また、道徳の時間では、「とちぎの子どもたちへの教え」の各指導事項との関連を十分に図った上で、考えさせたり、気付かせたりしながら「道徳的実践力を育成」し、子どもたちが各学年段階で必要な道徳性を身に付けられるよう、「教え育てる道徳教育」を推進しています。



次のページでは、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」の具体的事例について確認します。

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について、「友人への悪口」を例にして考えてみましょう。

道徳的実践の指導

悪口をやめさせる指導



悪口はやめなさい。
言われてた人は、
どんな気持ちになりますか？



道徳的実践力の育成

悪口をやめようと思う
内面的資質の育成



道徳の時間が中心
・思いやり ・友情
・公德心 ・寛容
・善悪の判断 等

【道徳的実践の指導】

悪口を言っている場面を見逃さず、悪口をやめるよう指導するとともに、悪口に関わる道徳的価値を確認することで、今後も悪口を言わないようにさせます。
機会を逃さず、その場で指導することが重要です。

【道徳的実践力の育成】

道徳の時間を中心に、悪口に関わる道徳的価値について、考えを深めたり、より高い価値に気付かせたりしながら、悪口をやめようと思う内面的資質を育てます。
計画的、発展的に指導することが重要です。

子どもたちの道徳性を高めるためには、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」を互に関連付けて指導することが重要になります。例えば、道徳的実践の指導場面を道徳の時間の振り返りで生かしたり、道徳の時間で深めた道徳的価値に基づいて、道徳的実践の指導の充実を図ったりすることが考えられます。

○道徳的実践の指導（「教える」）の留意点

大切なことだからといって一方的に教え込むのではなく、時には考えさせる時間をとりながら、子どもを納得させていく指導が重要です。また、指導に当たっては、関連する道徳的価値を十分に意識させるとともに、一人一人の子どもの中にある「よりよく生きたい」という思いに気付かせるような配慮も必要になります。

上の例で言えば、その場面を見逃さず、悪口をやめさせる指導とともに、小学校低学年の内容項目1-（3）や2-（3）を意識して、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせたり、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせたりしていくことが、「教える」ことになります。

『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、右のような具体的な指導事例を示しました。詳しくは指導事例集を参照してください。

小学校低学年 人の悪口を言わない

関連する内容項目

- 1-（3） よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。（解説p.40）
- 2-（3） 友達と仲よくし、助け合う。（解説p.43）

事例

場面1 体育の授業

この時期の児童は、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達の間を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいとされています。そのため、相手に自分の思いをうまく伝えられず、悪口になってしまうことがあります。嫌な思いをしないように、相手にどのように伝えたり言葉掛けたりしていけばよいか教えていくことが大切です。



【指導上の留意点】

- ・悪口を言う場面が見られたら、その場の注意だけで終わらずに、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせることが大切です。
- ・悪口を言った児童の気持ちを受け止めながら、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせていくことで、自分の思いばかりを優先させず、よりよい友達関係は築けないことに気付かせていきます。

3 道徳の時間の進め方

「教え育てる道徳教育」のうち、前頁では「教えること」（道徳的実践の指導）に焦点を当てて解説しました。ここでは、「育てること」（道徳的実践力の育成）の場である、「道徳の時間」について確認します。



道徳の年間指導計画を、指導者の考えや児童生徒の様子から判断して、他の教育活動を行ったり、内容を変更したりしていいの？

指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではありません。



◎こんなことはありませんか。

【事例】 教職3年目で、中学校2年生の担任をしている太郎先生が、週案を書きながら、来週の「道徳の時間」について、年間指導計画を確認しました。

ア 指導の時期 7月 第3週

イ 主題名 規則と義務 内容項目 4－(1)

ウ ねらい 秩序と規律ある社会を実現するために、社会の一員として自らに課せられた義務を確実に遂行しようとする態度を育てる。

エ 資料 「二通の手紙」 (文部省 中学校 社会のルールを大切にする心を育てる) 以下略



夏休み前なので、学級活動に変更して、夏休みの生活について話し合う方が大切だと思うな。

夏休み前で、生徒が落ち着かない。主題を「節度・節制」に変更して道徳の授業をすると、効果が期待できるかも。



道徳の時間の年間指導計画とは

学習指導要領には、「年間指導計画は、…意図的、計画的に作成されたものであり、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。」(小p.72・中p.75)とあります。

道徳の時間の年間指導計画は、重点的な指導や内容項目間の関連を考慮しながら、年間を見通して全ての内容項目を取り上げられるよう作成したものである点を重視しましょう。

変更や修正が必要になった場合

変更や修正を行う場合は、児童(生徒)の道徳性の育成という観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、少なくとも(道徳教育推進教師を含め)学年などによる検討を経ることが望ましい(必要である)。そして、変更した理由を備考欄などに記入し、今後の検討課題にすることが大切である。(小p.72・中p.75) ※ ()は中学校



「道徳の時間」の年間指導計画は、計画的、発展的に指導できるように作られているのですね。年間指導計画に従って、授業をしようと思います。

教師自身が「道徳の時間」を大切にしなければ、児童生徒は、「道徳なんて適当でいいんだ。」とってしまいます。

まずは、1時間1時間の「道徳の時間」を丁寧に扱きましょう。





「道徳の時間」は、どのように授業を進めたらいいの？

道徳の時間の学習過程は、一般的に下の表のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。さらに、展開を、資料を通して話し合う前段と、資料を離れ自分のことを振り返る後段に分けることも一般的です。

1時間の授業において、各段階の意図を踏まえて指導することが大切です。

○道徳の時間の一般的な学習指導過程（小p.84・中p.88-90）

過程	小学校	中学校
(1) 導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階	主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚に向けて動機付ける段階
(2) 展開	主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深める段階	道徳の時間のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める段階
(3) 終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ段階	1時間の授業のまとめをする段階 ・生徒の考えを整理する ・今後の発展につなぐ



道徳の時間の質を高めるために

「展開」の段階で、道徳的価値の自覚を深める活動を丁寧に行いましょう。

○道徳的価値の自覚 とは

- ・道徳的価値についての理解
「～は大切なんだ」
「～とはこういうことなんだ」
- ・自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること
「これまでの自分は～についてどうだったのか」
- ・道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること
「もっと～であるようになりたい」



次のような授業は、道徳の時間の特質から離れていますので気を付けましょう。

- ・資料の読み取りを中心とする進め方 → 内容を把握することが目的ではありません。
- ・子どもや学級が抱える問題の直接的な解決の話し合い → 特別活動ではありません。
- ・車椅子体験、アイマスク体験など体験活動に終始した授業 → 体験が目的ではありません。
- ・エンカウンターなどコミュニケーションや人間関係を深めるスキル学習
→ スキルを高める時間ではありません。 など



道徳の授業をやっても児童生徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。

道徳の時間は、次のような性格をもっています。

- (1) 自分を見つめることを通して見えない心を鍛える
- (2) いつか将来、適切な行為を選ぶことを期待する
- (3) 即効性を求めない

生活に例えるなら、「道徳の時間」は毎日の食事のようなものです。
毎日、規則正しく食事をすることで、健康な体がつくられるように、年間指導計画に従った道徳の授業により、道徳的实践力が育成されていきます。
健康な体がつくられると、よりよい生活が送れるように、道徳的实践力が育成されると、道徳的实践ができるようになります。
だからこそ、計画的、発展的な指導が大切なのです。



○ 道徳の時間における道徳的实践力の育成

道徳的实践力を育てることを目的とする道徳の時間においては、その特質を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切である。道徳的实践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければならない。(小p. 31・中p. 32)

◇ おわりに

人間は本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。道徳教育とは、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。(小p. 15・中p. 15)

子どもは誰もよりよく生きたいという願いをもっており、その願いを実現できるよう、子どもたちの道徳性を意図的・計画的に養っていく必要があります。そのためには、各学校の全体計画で道徳教育の基本方針を示すとともに、学校としての重点目標を明確にすることで、学校で行う道徳教育に方向性をもたせることが重要となります。

県教育委員会で推進している「教え育てる道徳教育」は、学年段階ごとに示した五つの指導事項を重点に、全ての教育活動で「教え」ていき、道徳の時間を中心に「育て」ていくことで、子どもたちの道徳性を養っていく教育活動です。各学校においては、ぜひ「とちぎの子どもたちへの教え」に指導すべき事項を追加するなど自校化してほしいと思います。

本号は、道徳教育に不安をもつ教員であっても、自信をもって道徳教育を実践できるようにという願いを込めて編集しました。本号で解説した内容は、あくまで入口です。ぜひ実践を積み重ねて、子どもたちのよりよく生きようとする力を伸ばして行ってほしいと思います。

本号に掲載した「教え育てる道徳教育」指導資料に関連する PDF データは県のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

【ホーム > 教育・文化 > 学校教育 > 小・中学校 > 「教え育てる道徳教育」指導資料】